

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第58回放送の概要 (2012年12月22日放送)

パーソナリティ

さくら (安本久美子)
タロウ (佃 由晃)
なかちゃん (中嶋邦弘)

コアラさんの地域瓦版

アコちゃん (三木文子)



ミキサー

門ちゃん (門田成延)
一ノ瀬悟

相談役

わだかん (和田幹司)

会計

小山俊則

(CM) エキストラ珈琲は、神戸で初めてのコーヒー豆焙煎問屋として、大正 12 年に誕生。その伝統ある個性的な存在は、高級コーヒーを厳選し、評価に値する味を提供する店として、広く皆様に愛されています。大河ドラマ「平清盛」もいよいよ終盤、清盛茶屋、能福時、真光寺へ是非お越しください。本日はエキストラ珈琲様 (電話 078-671-0135) のご協力を頂きました。

1. オープニング

12月に入り、来年1月17日新長田駅前で行われる追悼行事の準備のため、幼稚園と小中学校6か所に出向き、ろうそく作りをしてきました。阪神淡路大震災の当時の責任者(村山首相、自衛隊伊丹中部方面総監他)に、体験を黙っているので話してほしいと言って聞きとった貴重な報告書が残っている。東日本大震災が起きたので、報告書を早くオープンにしようという動きがある。ノロウイルスの対策は手洗い、うがいが大事です。

2. ゲストコーナー：神大学生震災救援隊 沼田智紀さん、石川雄也さん

沼田さんは神戸大学発達科学部2回生、石川さんは同じく1回生です。震災救援隊は1995年の阪神淡路大震災時に救援活動したのがきっかけで発足した団体で、その後は震災で見えてきた社会問題にも取り組んでいる。当時の先輩が神戸大学を拠点にし、救援物資の割り振り、炊き出し、風呂を沸かしたりしたことがきっかけと聞いている。救援隊活動の当初は仮設住宅でお茶会など地域のコミュニティづくりに取り組んだ。今も復興住宅のお茶会の運営、灘チャレンジという、町に元気を取り戻すお祭りを始め、今も続いている。お祭りで出来た関係をきっかけに、長田のひまわりの会と言う識字教室に手伝いに行ったり、チンドン屋(神大モダン・ドンチキ)を始めたメンバーもいる。全国の大学でチンドン屋があるのは神戸大の他は早稲田と立命館のみである。またホームレスとつながる活動をしているグループ(のじこん)もある。石川さんは各地域で夜廻りを行っている団体に最近参加し、三宮にホームレスがいることに衝撃を受け、勉強になった。借金から逃げるため、家庭問題(DV)など色んな問題を抱えているため、こうすればという答えがない難しい問題である。三宮地下道で生活をしている人や、どこで寝ているのかわからない人がほとんどであった。今後とも活動は続けたいと思っている。また被災地支援活動としては、今夏、熊本阿蘇の水害被災地に1泊2日で訪問した。現地は土砂崩れで山肌が削られ、民家が土砂で呑みこまれ、想像を絶する光景でショックを受けた。そこで民家の土砂を運び出したり、避難者に足湯を提供したりする中で、人の強さ、繋がり的重要性を認識した。泥出しは2~3時間やり続けるだけで、物を考えることも出来なくなる程しんどく、普段使わない筋肉を使うので体が

とても痛くなった。東北では被災者、ボランティア共に大変だろうということを感じた。

沼田さんは救援隊で灘チャレンジの実行委員長として活動している。1回生の6月に初めて参加した時は、大変な部分は見えなかった。今年委員長として取り組んだ結果、想像を絶するものがあった。震災救援隊登録している学生は70人程でその内30~40人は普段も活動している。灘チャレンジには当日だけの学生も含めかなりの学生が参加している。お祭りの開催場所は、2008年夏に水難事故で5人が亡くなった灘区の都賀川公園である。地元とのコラボレーションとして、障害者作業所、デイケアセンターの方、毎月骨董市を開いている人、福島の支援をしている人、北区で農園をしている人などの協力で、模擬店を出してもらっている。多くの地元の人の前に立って話をする事は、緊張し大変だった。今年で18回目のお祭りのため、地元も十分理解をして協力してくれた。会場にはステージ、子供向けゲーム、傍の灘区民ホールでは震災に関する展示、水難事故に関する展示、会場内を廻るラリーの企画などがある。

ステージではドンチキがあり、発達障害のADHD（注意欠陥多動症）と自閉症を取り上げた演劇を行った。町には発達障害と言われる人がいるが、それは一つの個性であり、出来ないことを廻りが否定的に言うのではなく、その人を理解したうえで関わって行きましょうということを訴えた。模擬店以外に協賛店があり、これは灘チャレンジのパンフレットに掲載する広告を提供されたお店で、運営費に充てられている。また協力企業は、祭に賛同して寄付してもらった企業で、昨年は東北大震災の影響が少なかった。また協力団体（個人）もあり、非常に多くの団体個人の支援のもとに灘チャレンジは運営されている。実行委員長として難しかったのは、委員会の中で灘チャレンジを、どのようなものにしていくかについて、委員会の中でのずれを合わせるのに苦労したこと、お祭りを安全に運営することについて話し合いを重ねたことなどである。

灘チャレンジ2012の開催方針は、「まちを知り、よい良いまちへ」とした。色んな人が暮らす町に、一般の人はあまり気付かない障害者や在日外国人を含め色んな人がいることを知ってもらい、自分に何が出来るかを考えてもらいたいと思った。まつりが終わって実行委員会のメンバーは、方針を理解して関わってくれた結果、障害者の事、地域で活動している人の事を知って行けたと思う。まつりに来てくれた人がどこまで感じてくれたかは疑問がある。まつりには1万人近くが来てくれたと思っている。既に来年度の準備を始めている。来年の実行委員長もやる気はなくはない。来年も6月2日の第1日曜日に開催します。

発達科学部でこれから学びたい事は、沼田さんは町づくり、コミュニティのことを勉強したい。また障害者の介護にも興味を持っている。石川さんは教育、心理の勉強をしており、学校教育に興味を持つ



灘チャレンジ
2012

6月3日(日) 10:00~16:00
都賀川公園で祭!! (荒天中止)

主催：灘チャレンジ実行委員会
〒657-8501 神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学学務部学生支援課気付
神戸大学学生震災救援隊内

TEL & FAX 078-881-4755
E-mail nadachallenge@yahoo.co.jp
URL <http://nadacha.info/>
Twitter Ncha_2012

後援：神戸市灘区



ているので、このような教育スタイルがいいというようなものを見つけ出し、携わりたい。



3. ミュージックコーナ:「アベマリア」 ピアノ川村泰子

12月になってクリスマスソングをあまり聞かないと思っていたが、最近は多くなってきた。先日ピアニストの河村泰子さんが学校に来て演奏されたので、スタンダードのアベマリアをお送りします。

4. ふりかえり

今日は今年最後の放送になるので、今年の振りかえりと、来年の抱負について話をしたいと思います。ゆうかりのこれまでのゲストは武陽会関係者が多く、年齢は現役高校生から36陽会（1949年卒業）まで広範囲にわたっている。特に我々より15歳若い64陽会からは多くのゲスト出演頂いているので、放送に直接関与いただきたく考えているが、現役バリバリで大変忙しいので、とりあえず一度気楽にやっていただき、放送の雰囲気を感じて頂きたいと思っている。

放送に必要な運営資金は、飲み会時に徴収する浄財により豊かになっている。来年も飲んで騒いで浄財を集めたいと思っている。最近 facebook に武陽会のページを立ち上げた。このページにゆうかりに乾杯を投稿している。先月の石井兵庫高校校長にお越し頂いたことも投稿済みである。現在メンバーは389人で、ゆうかりに乾杯の認知度を高めるのに有効と考えている。

なかちゃんのHPにはゆうかりに乾杯のリンクを張っていることもあり、先月頃よりアクセスが急増している。昨年より放送時間が55分に伸び、58回と言う実績も積まれてきたので、ゲスト出演の願いがしやすくなってきた。また、過去の放送が全て49陽会のHPで確認できるようになっている事、音声と文書で残っているので、外部の人に説明がしやすくなってきている。最近はサポーターがあまり遊びに来てくれないので声をかけたい。特に若い人に遊びに来てもらいたい。兵庫高校以外の出身者のゲスト出演をふやしたい。1.17追悼行事で繋がりの出来た兵庫県立大学などに声をかけたい。CM提供者を探しましょう。

あこちゃんは先日ふたご座流星群を見た。ベランダから南の空を目を凝らしてみている時はそれほど見えなかったが、なにげなしに西の空を見るとびっくりするほどきれいな星が見えた。このことから物事を見る時はすぐに判断せず、角度を変えてみるのが大事と言うことを宇宙に教えられた。今後小さなパラダイムシフトすることを心掛け、深めて行きたい。わだかんさんは地域にこだわり、県のビジョン委員会の委員として、県の視点でものを見ることに取り組んでいること、2冊目の歴史書を来年書きたいと思っている。

番組に対するご意見、ご感想はこちらまで：yuukarinikanpai@gmail.com